

研究班番号【14】
胸キュンの最大要因は？

保健班:辻 隼人、原 香菜美

要約

本研究の目的は、胸キュンの最大要因を明らかにすることである。実験から、『壁ドン』、より距離が近くなる『肘ドン』、より視線量が多い状況になる『両手ドン』の中で最も胸キュンするのは、『両手ドン』だということが判明した。また、「視線量」が多くなるときに、相手と気が合い、好意を持ち、性的魅力を感じることから、本研究では、胸キュンの最大要因は「視線量」であるということ結論付けた。

1. はじめに

現代、コロナ禍において他人と接触を控えなければならない状況で、学校に様々な規制がかかり、人間関係が希薄化している。特に高校生は、異性への関心・興味が高まる時期であるが、異性との関わりが実に少なくなっている。そこで、女性500名に聞いた実は「一番胸キュンする！」と思う男子の行動ランキング」について調査した。

表1 実は「一番胸キュンする！」と思う男子の行動ランキング (gooランキング/2015)

1位バックハグ	6位顎クイ
2位頭ポンポン	7位床ドン
3位壁ドン	8位髪クシャ
4位腕グイ	9位ねじpoke
5位デコツン	10位肩ズン

しかし、コロナ禍において、1位のバックハグ、2位の頭ポンポン、4位の腕グイ、5位のデコツン、6位の顎クイ、9位のねじpoke、10位の肩ズンは接触型の行動であるため、控えるべきだと考える。それらを除いて上位にあるのは壁ドンである。本研究では、壁ドンを用いて実験を実施し、胸キュンの最大の要因を突き止めようと試みる。本研究では、より距離が近くなる『肘ドン』、より視線量が多い状況になる『両手ドン』と仮定する。『肘ドン』、『両手ドン』を『壁ドン』と比較し、最も胸キュンするのはどれかを調査した。本研究において、胸キュンとは胸がときめくこと、視線量とは視線の量のことであると定義する。

2. 研究手法

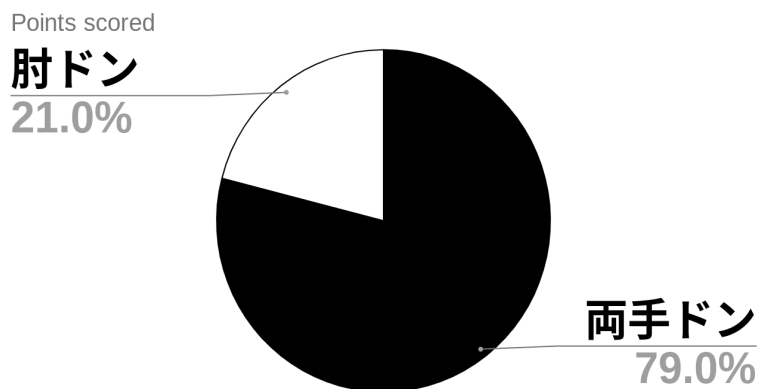
《実験》

- ①事前にアンケートで異性に興味があると回答した高津高校二年生女子生徒16名と、協力を求めた高津高校二年生男子生徒4人を実験対象にした。
- ②女子生徒は男子生徒と二人だけの空間で男子生徒から『壁ドン』、『肘ドン』、『両手ドン』を受け、別日に異なる男子生徒に同様の事をもう一度受けた。
- ③女子生徒にどれが最も胸キュンしたかというアンケートに回答してもらった。また感想も回答してもらった。

3. 結果

79パーセントを占めた『両手ドン』が最も胸キュンしたと答えた人が最も多かった。2位は『肘ドン』で21パーセントを占め、壁ドンが最も胸キュンしたと答えた人はいなかった。また、実験後に女子生徒に実施したアンケートの感想の部分により、この胸キュンは恐怖心や驚きからではなく、胸がときめいたからだということが明確になった。

図1 最も胸キュンしたのは？



4. 考察

本実験では初めに「距離の近さ」について注目した。男子生徒と女子生徒が壁ドンをする際の鼻と鼻の距離を測り、短い順に順位をつけた。結果は1位『肘ドン』8cm、2位『両手ドン』15cm、3位『壁ドン』18cmとなった。しかし、この順位と実験の結果が一致していないことから胸キュンの最大要因は「距離の近さ」ではないと判明した。次に「視線量」に注目した。島根県立看護短期大学の飯塚雄一教授は「視線量」が多い時に、相手と気が合い、好意を持ち、性的魅力を感じると述べている。本実験では、相手と気が合い、好意を持ち、性的魅力を感じることを胸キュンしたと考え、「視線量」が多いと仮定した『両手ドン』が1位であることから胸キュンの最大要因は「視線量」であることが明らかになった。

表2 まとめ

鼻と鼻の距離	胸キュンの順位
1位肘ドン 8cm	1位両手ドン
2位両手ドン 15cm	2位肘ドン
3位壁ドン 18cm	3位壁ドン

5. 結論

本研究では、高津高校二年生の女子生徒16名に『壁ドン』、『肘ドン』、『両手ドン』を計二回ずつ受けてもらい、その後のアンケート結果により、両手ドンが一番胸キュンすることが判明した。初めに、胸キュンの最大要因として距離の近さに関係していると考えた。しかし、実際の距離の近さとアンケート結果の順位が異なるため胸キュンの最大要因は距離の近さではないと判明した。次に胸キュンの最大要因として視線量の多さに関係していると考えた。島根県立看護短期大学の飯塚雄一教授は「視線量」が多い時に、相手と気が合い、好意を持ち、性的魅力を感じると述べている。本実験では、相手と気が合い、好意を持ち、性的魅力を感じることを胸キュンしたと考え、「視線量」が多いと仮定した『両手ドン』が1位であることから胸キュンの最大要因は「視線量」であることが明確になった。本研究の課題は、男子生徒と女子生徒との関係性により、女子生徒の受け取り方が異なることである。また、被験者を限定しすぎたため、胸キュンの最大要因を決定するには限界があった。したがって、今後の展望としては、男子生徒と女子生徒の関係性を均等にすることと被験者の年齢の幅を広げ人数を多くすることによって、胸キュンの最大要因をより正確なものにすることである。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

gooランキング/実は「一番胸キュンする！」と思う男子の行動ランキング/2015.6.16
<https://ranking.goo.ne.jp/column/1310/ranking/46732/?page=2>(2021.6.2)
飯塚 雄一/視線量の多少が印象形成に及ぼす影響/2004.12.20
<http://id.nii.ac.jp/1377/00000150/>(2021.12.8)